

地域資源（認知症カフェ）を 活用した地域づくり

～熊本地震を体験して感じた地域のつながり～



熊本市東区役所 福祉課

本日の内容

- ・ 震災時の認知症高齢者の現状と課題
- ・ 認知症の人が暮らしやすいまちになるための取組み
- ・ 今後の課題

熊本市東区の概要

自然豊かな 笑顔あふれる未来のまち 東区



熊本市は県内人口の約41.8%にあたる約74万人の市民が住む。平成24年に九州で3番目の政令指定都市に移行。九州では、福岡市、北九州市について、3番目に人口が多く、豊富な地下水、水前寺江津湖湧水群などを称えて「水の都」とも呼ばれている。

熊本市		熊本市東区
73.7万人	人口	18.8万人
18.2万人	高齢者数	4.2万人
24.9%	高齢化率	22.4%
27か所	包括支援センター	5か所

熊本地震

4月14日21時26分に熊本地方の深さ約10kmでマグニチュード(M)6.5の地震が発生した。

4月16日1時25分に同地方の深さ約10kmでM7.3の地震が発生した。熊本県で最大震度7を観測。

人的被害

都道府県名	死者	重傷	軽傷
熊本県	225人	1,130人	1,552人

《参考》死者数の内訳【熊本県からの報告】
(平成29年4月13日)

建物被害 (消防庁情報：平成29年4月13日)

都道府県名	住宅被害 (棟)		
	全壊	半壊	一部破損
熊本県	8,688	33,809	147,563



避難所への避難者最大数：

183,882名

(平成28年4月17日、855箇所開設)

震災時の認知症高齢者の現状

地震による自宅損壊や避難するために、慣れない場所での生活が続いた



他者との荷物を取り違える、帰宅要求や徘徊などの不穏症状が出現



介護家族は、周囲への配慮から避難所へ行けず、車中泊を余儀なくされた

- ◆ 老々介護夫婦は、避難もできず、認知症の妻とこたつの下で一夜を過ごす
- ◆ 認知症高齢者を避難所において、避難所から出てしまった家族

認知症の人が暮らしやすいまちになるために

認知症まちづくりProject



①地域の方に認知症を正しく理解してもらう

➡「多世代交流・実践型認知症サポーター養成講座」

②ご近所や地域で日常の中での

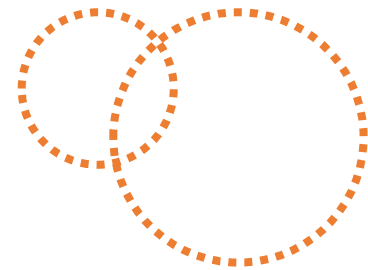
見守り(気づき)声掛け・困りごとを解決する助け合い、地域のつながりをつくる

➡「山ノ内ドリームプロジェクト」

③専門職のスキルアップと認知症

サポーターを活かした支援体制づくり

➡「人材育成を活用した支援体制づくり」



認知症カフェを活用した

① 多世代交流・実践型認知症サポーター養成講座

対象：地域の小学生～大人まで

場所：介護保険事業所敷地内にある
常設型の「認知症カフェ」



ファシリテーター：Orange Project



(認知症になっても安心して暮らせるまちづくりに貢献する学生ボランティア)

効果

- 認知症という社会的課題を、子どもたちが素直に認知症になった方の変化や気持ちを汲み取ってくれた。
- 認知症をマイナスイメージで終わらせるのではなく、前向きなイメージの構築ができ、認知症になっても、その人の心は生きつづけ、その人らしさというものを実感してもらえたと思う。



②山ノ内ドリームプロジェクト

～一人でも多くの人が幸せを感じられるまちに～

包括ケアシステム実現に向け、 認知症カフェを活用した地域づくりの実践

実行委員

- 自治協議会会長
- 民生委員児童委員協議会会長
- 社会福祉協議会会長
- 熊本市社会福祉協議会 東区事務所
- 熊本市障がい者相談支援センターきらり
- NPO法人あやの里 認知症カフェas a café
- 熊本市地域包括支援センターささえりあ
- 熊本市東区役所 東部まちづくりセンター
- 熊本市東区役所 保健子ども課
- 熊本市東区役所 福祉課（認知症地域支援推進員）

「こんな校区に住みたい！」 ～ワークショップ開催～

平成28年2月24日

場所：認知症カフェ

参加者：68名（地域住民・行政・包括・事業所）



（基調講演）

医療経済研究機構 研究部兼研究総務部次長
服部 真治氏
厚生労働省 老健局 総務課 課長補佐
石井 義恭氏

校区にあったらいいと思うもの

◇認知症に関すること

- ・ 認知症の方への声かけ
- ・ 認知症の方の地域の相談先、介入する人々
- ・ 認知症緊急時の支援
- ・ 認知症の方の見守り隊
- ・ 徘徊模擬訓練



◇見守り活動に関すること

- ・ 一人暮らしの家のごみ出しの手伝い
- ・ 高齢者が病院・買い物を気軽に頼める人
- ・ 家事代行の人
- ・ 一人暮らしの高齢者の方へ子ども達の元気な声を届けてくれる人
- ・ 買い物を電話注文し、宅配してくれる所
- ・ 独居高齢者の庭の手入れをしてくれる方
- ・ 高齢者名簿情報

◇高齢者サロンに関すること

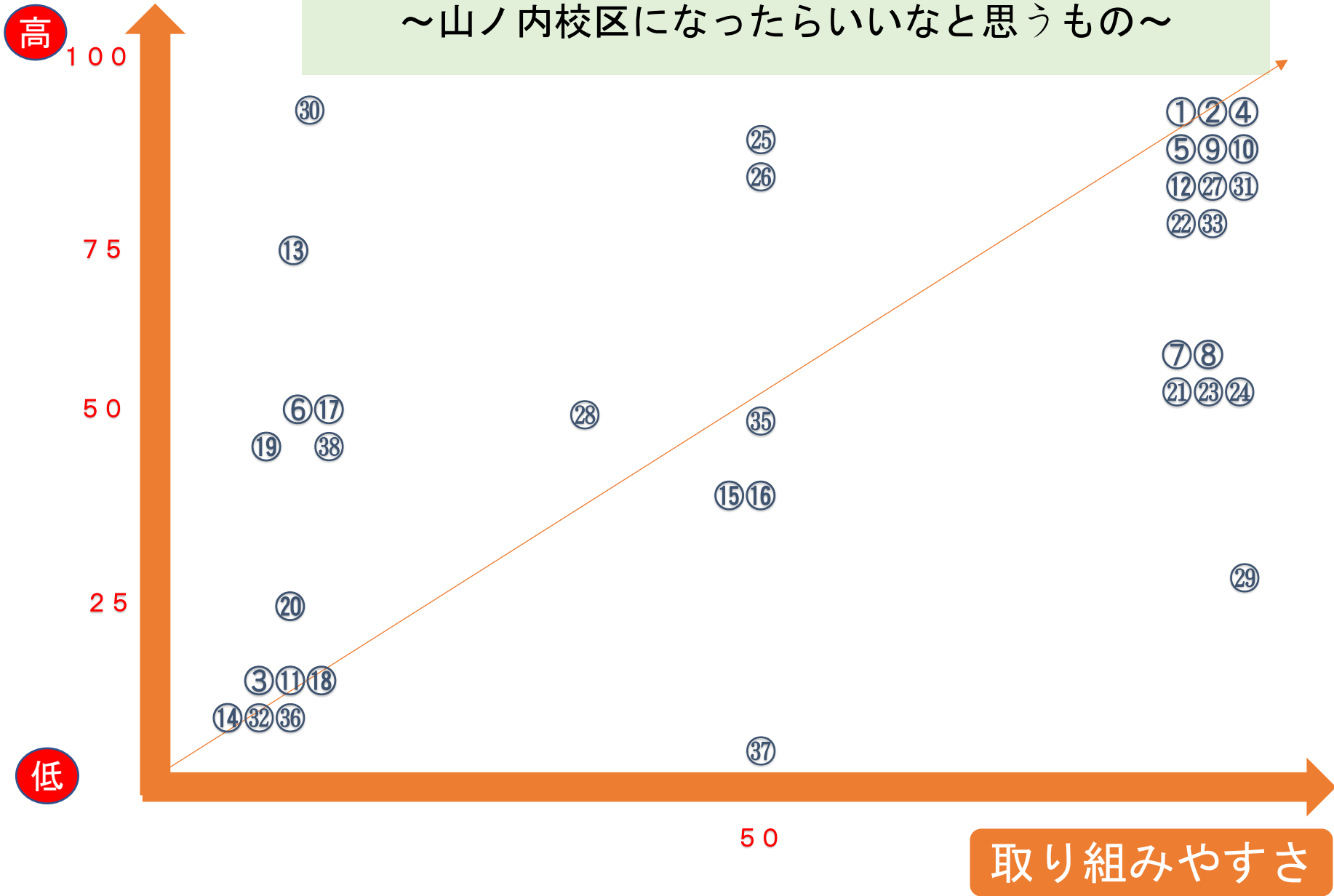
- ・ 老人会会員を増やす
- ・ いきいきサロン参加者増加
- ・ 他町内合同のふれあいサロン
- ・ 子ども達も含めたふれあい会

etc・・・38項目

優先度

山ノ内ドリームプロジェクト

～山ノ内校区になったらいいなと思うもの～



地域のつながりへ

①認知症の方の公園清掃活動への参加

②民生委員さんから

「認知症サポーターを増やしたい！」

→認知症サポーターの実施



「雨上がりに大変ですね〜」
「皆暇だけんね〜〜（笑）」



認知症の方と地域の方
とのお花見



③ 人材育成を活用した支援体制づくり

◎ 専門職のスキルアップのため

「認知症サポート実践ケア研修」 (全6回)

◎ 認知症サポーター有効活用するため

「認知症サポートリーダー養成講座」 (全5回)

5月15日	6月12日	8月5日	10月14日	2月24日
「災害時の認知症の方の対応」 認知症実践ケア CoBRA	VR（バーチャル）認知症体験会を通して中核症状を体験し、認知症の方の生きている世界を体験する	当事者のニーズや思いを知り、パーソンセンタードケアを考える	若年性の支援と地域支援について学び、当事者の思いを地域資源を活用して自分たちにできることを考え取り組む	第4回目に取り組んだ事を発表



専門職×地域サポーターとの 連携関係醸成



① 専門職と地域住民はなかなか接する機会が少ないので、その中で専門職×地域のサポーターと、顔の見える関係を築き今後も、継続的に連携を図る事もひとつの目的として合同研修実施。

② 各グループで地域資源を活用して、実際に一緒に取り組み、その数か月後に取り組みを発表してもらう。ここでも、専門職の縦だけでなく、地域との横のつながりをつくり、点⇒線⇒面での支援体制構築を図る。



今後の課題

こういった研修会等はある程度認知症に関心度の高い方、世代にも偏りが見られる。

世代を超えて、地域のつながりを作るために若い世代への認知症の理解と、地域活動への参加が今後課題である。

認知症と共に生きる → 共生社会へ



幸せを感じるまちをめざして

「認知症の人が暮らしやすいまちへ」

ハード面での復興だけでなく、人との繋がりで住む人の心のケアなどソフト面での復興も目指していきます。

ご清聴ありがとうございました

